

人のために豊かさや便利さを提供する
土木を、生活のなかに浸透させていくこと。
「DOBOKU×カルチャー」
では、私たちと土木の距離を縮めてくれる、
そんなコンテンツを紹介します。

第 六 回

『スリバチ散歩』



港区赤坂の4丁目と7丁目の間にある
薬研坂。かなりの傾斜を下って上る、ま
さにスリバチだ。写真は南側の坂の上
から見た様子。奥の通りは青山通り。



新宿区荒木町を高低差で見ると、ここだけ見事に
窪んでいることがわかる。もともとは紅葉川の支流
がつくった谷地。この名残で、底には今も小さな池
(策〔むち〕の池)が残る。

部〃を組むタモリと漫画家・江川達也
の二人と地形ネタで対決するという企
画にも出演。それと前後して当時企画
段階だったNHK「プラタモリ」にも
情報提供などで協力した。

その後、東日本大震災が起こった
ことで、地形と災害に関連した情報
がより注目されるようになっていく。
2012年には、「スリバチブログ」で
の内容をまとめる形で「東京『スリバ
チ』地形散歩」(洋泉社)が刊行された。
その後も地形に着目しての散歩趣味
は一般に広まり、古道、階段、暗渠と
いった、より深化、細分化したジャン
ルにも地形散歩は発展していった。

地形は、元来自然によるものだが、
歴史の中で、例えば江戸期の土木工
事により生まれた地形なども、今の東京
には数多く見られる。皆川さんに解説
してもらった、「例えば千鳥ヶ淵は江
戸初期に造られたダム湖で、溜池
は江戸城外堀の一部だけと飲み水確保
のための多目的ダムでもありました」
といった具合だ。

さらに皆川さんに、東京のおすすめ
土木地形を聞くと、四谷・荒木町の谷
底が挙がった。「池の水を貯めるため
に一方を堰き止めて塞いだ場所です。
江戸時代は松平摂津守の屋敷で、大名
庭園の観賞用の池にするためにそうし
たんでしょう。明治以降は花柳界が栄
えて、今もその名残りで個人経営の個
性的なお店の多い地域になっています
ね」ということだ。

そんな地形散歩の〃教祖的〃な存在
とも言える皆川さんが、長い間夢見て
いたのが東京23区の地形、高低差がわ



港区の虎ノ門5丁目近辺で進む「虎ノ門・麻布台地区第一種市
街地再開発事業」。右のビルは六本木のアークヒルズ。この地域
は窪地で、ゆえに人々が集まったというが、今は姿を消してしまっ
た。刻一刻と姿を変え、進化を続ける東京の一面だ。

「東京散歩」というのはすでに趣味
の「ジャンル」として確立しているよう
で、大型書店を覗くと町歩き本のコー
ナーがあり、様々なガイド本が並んで
いる。中でも近年人気があるのが地形
散歩というジャンル。そこで「スリバ
チ」をキーワードに、町歩きツアー、
テレビ出演、執筆活動などで縦横無尽
に活躍しているのが皆川典久さんだ。
大手ゼネコンで建築設計の仕事を手
当する皆川さんは群馬県前橋市出身。
宮城県仙台市内の大学を卒業後、現在
の勤め先に就職して東京へ。そこで初
めて出会ったのが、高低差の激しい東
京の地形だった。

「なんでこんなに坂が多いのか。そ
の谷間や窪地がおもしろいということ
に気付く、東京をあちこち散歩するよ
うになったんです。歩いてみて不思議
な地形や道筋だと感じると、古地図や
文献を調べたり、神社にある碑を読ん
だり。実際に歩きながらリアルに感じ

る地図帳を出すことだった。それが
なんと昨年12月に実現したのだ。
「昭文社の1万分の1、23区地図に
国土地理院の5mメッシュ標高データ
を加え、地形散歩には必要な情報を
除いてできた地図をもとに、コンビニ
や公衆トイレ、銭湯、神社、教会、公
共施設は残し、古道愛好家の萩窪主さ
ん、階段研究の松本泰生さん、暗渠探
索の本田創さんが持っている情報を落
とし込んでもらって地形散歩の目的に
特化した地図が出来上がりました」。

この『東京23区凸凹地図』と同時に
『東京スリバチの達人』分水嶺東京北
部編と南部編の2冊も同時刊行。こち
らの2冊は皆川さんの単著書となり、
現代・明治・江戸の三地図を見比べな
がら、都内各地の地形散歩ができるガ
イドブックとなっている。

本の帯には「タモリ氏推奨」とあり、
「大都会の谷をゆく!」窪地の魅力を
徹底ナビ」とのキャッチフレーズが躍



東京は武蔵野台地が作り出した元来の地形に加えて、歴史的に
土木工事なども盛んで、スリバチが非常に多い地域だ。例えば改良
工事が続くお茶の水は、江戸期に本郷台地を開削し神田川が
通された場所。河岸は絶壁で凸凹が著しい。

たことを調べていくのは楽しくて、頭
にも入るし、町への親近感も増してく
る。どんどん東京散歩にのめり込んで
いきました」。

皆川さんの勤め先である赤坂には、
急な下り坂と上り坂が連続している
「薬研坂」という名の坂がある。坂の
下り上りが、「薬研」という、葉など
をすりつぶす「スリバチ」の底のよう
な形だからと名付けられたものだが、
スリバチとは、谷間、窪地を象徴する
ような形。

2003年には、地形好きの同僚・
石川初さんと二人で『スリバチ学会』
を結成。ブログで情報発信するなどの
活動を開始した。東京に住んで以来、
蓄積してきた地形の知識やデータを発
表しつつ、参加者を募って月一回町歩
きイベントを開催するようになった。

「毎回、赤坂、高輪、赤羽などとエ
リアを決めて、参加したい人には申込
不要で集合してもらいます。最初は
10人くらいで歩いていましたが、アン
テナ感度のいいマニアがさらに人を呼
び、参加者は毎回数十人にもなりまし
た」。

2008年には、深夜のテレビ番組
「タモリ倶楽部」で、タモ江地形倶楽

る。高台から坂下を見下ろす派ではな
く、あくまでも窪地推しのよう。
「コロナ禍のニュースタンダードを
目指そうと、『遠出しなくても身近に
お宝が発見できるんだよ』という地図
を目指しました」ということだ。

昭文社の『凸凹地図』は、続いて東
京郊外編や神奈川編も刊行される予
定。自ら地図を持って地形を探究する
散歩趣味は、この地図とともに一層広
まり、深まっていきそうだ。

既刊紹介



『東京23区凸凹地図』
発行：昭文社(2020年)
定価：本体2000円＋税



『東京スリバチの達人 分水嶺東京南部・北部編』
発行：昭文社(2020年)
定価：本体2200円＋税

『東京凸凹地図』は細かい高
低差が記された画期的な凸凹地
図。「マップル」の昭文社が手掛
けており、地図の精度は申し分な
く、実用性十分の一冊だ。本を
片手に、まずは近所の散歩から。
新しい発見があるかも？
『東京スリバチの達人』は、東
京を南部と北部で分けた2冊セッ
ト。現在のスリバチ地図と明治・
江戸の古地図を比較しながら、見
るべきポイントをチェックできる。
こちらは地図というより、読み物
だ。東京にはたくさんのスリバチ
があることに、ぜひ驚いてほしい。



今回お話を伺った皆川典久(みながわ・のり
ひさ)さん。1963年群馬県前橋市生まれ。
都内の凸凹地形に着目したフィールドワーク
をライフワークとする。2003年には石川初氏
と共同で「東京スリバチ学会」を設立し、会
長を務める。ほか、法政大学の非常勤講師、
江戸・東京研究センターの客員研究員、
高低差建築学会会長など幅広く活躍。